

回 会 報

163号

新日本美術協会

平成三十年年度総会開催される

平成三十年六月十七日午後、東京上野日展会館(本館)二階会議室において新日本美術協会定期総会が開催されました。総会直前に定例委員会も行われ、総会成立に必要な出席者数、委任状数等が要件を十分満たしていることが確認された。

総会は「平成三十年度・定期総会議案書」に基づいて進行、司会は石村委員が、総会議長に高岩委員、書記に山崎委員、議事録署名人に増野委員と篠委員がそれぞれ指名され、議事が進められた。

第一号議案 平成二十九年度事業報告を鈴木事務局長が収支決算報告書並びに財産目録を小宮山委員がそれぞれ議案書に沿って説明、続いて監査結果報告を松本委員が説



議案書審議中の総会出席者

明、2・3の質疑応答後採決、賛同多数で議案書通り承認されました。

第二号議案

平成三十年度事業計画案を鈴木事務局長が収支予算案を小宮山委員が説明し、2・3の質疑後採決、賛成多数でそれぞれ議案書通り承認されました。

事務局
横浜市港南区港南台
1-39-5
鈴木忠義方
Tel.045-832-0504

編集委員
小高峯夫
富岡ネム
大石 亨
四方公子
早田美智子

原稿常時募集
次号平成30年11月予定

その他事務報告として新委員蕪木さん、湯澤さんの紹介と出席された湯澤さんの挨拶、新東京支部長永野さんの挨拶、新入会者の氏名紹介、及び四十二回展実行委員長小高さんの紹介と挨拶等が行われました。

第四十二回新日美展迫る

実行委員長 小高峯夫

会員の皆様暑い夏如何お過ごしでしょうか、搬入日まで一カ月を切りました。出品作は最終仕上げ佳境の段階と思います。

私は過去八年間新日美会報の編集に専ら携わってきました。会の運営状況や支部及び会員の活動状況が出来るだけ生で伝わるよう努めてきました。会報を見れば新日美の実状がわかるよう裏方に努めてきました。今度は実行委員長という表側にまわることになりました。不得手な役目ですが会

の事なので引き受ける事にしました。新日美展でやる事は永野事業部長中心に委員会を決めており、私の役目は決めた事をスムーズに事故なく、皆でやり遂げられる様調整・指導する事だと思っています。一年一度のイベントをそれぞれの立場、持ちやで力を発揮し盛り上げていきましょう。新日美展のここ数年の実績を見ると出品数、一般応募者数とも横ばいからやや向上きというところですが内容的には、ワークショップや講演などを加え、更に賞や小品部門の充実化など進化しております。四十二回展はさらに立派な展覧会になると確信しています。

新委員の紹介



蕪木節男(絵画)
栃木支部

この度委員に推挙頂き誠に光栄に存じます。浅学非才な私に果たして任務を全う出来るのか誠に心もとない感じがいたしますが、体調を整え少しでもお役に立てるよう努力いたす所存です。皆様のご理解ご協力をお願い致します。

私は六十歳の定年退職するまで一途に企業戦士として働いてまいりましたので退職後は妻へのお礼を考え六十五歳までハワイや北海道から九州一周等全国各地の名所旧跡の観光を旅してまいりましたが、六十五歳の人間ドックで左腎臓がんに発見され各種治療をしたが完治せず六十七歳で摘出手術をし自宅療養中に終活等の話をしたところ、妻から「この世に生きた証を残しては」といわれ熟慮の結果七十歳をもって油彩画を残そうと思いいち道具一式を揃え「一枚の絵」の月刊誌を参考に描き方を独学し廊下で描いております。

感動した対象物を細かく観察の上スケッチし帰宅後描き上げていく、の繰り返しです。絵は手の筆ではなく心の筆で描く」と言われた宮本三郎画伯の言葉を念頭に努めております。

ある時、妻より「一度絵画展に出品しては」といわれ当会の第三十六回展に出品し入選させて頂き、その後二十九回展ではホルベイン工業賞を受賞し何か先に光が見える様になり体調も復調し気力も充実してまいりました。現在は支部展を開催する度、写真係を務め初日より終了日まで毎日出席し現況を本部報告用にと努めております。

今年で画歴満七年となりますが、一歩でも絵画の真髄を極めるよう終生努力し、孫達への「グイジ」からの良きプレゼントとなればと考えております。末筆ながら諸先生方のご指導の程宜しくお願い致します。



湯澤朱美(工芸)
栃木支部

誇れる資質

このたび、新日本美術協会委員への就任要請をいただき、これまでさまざまな形で学ばせていただいた事へのご恩に報いる為にも、微力ではありますが、お引き受けすることにいたしました。

委員という大役ですが、諸先輩方からの臆する事なく若い力を発揮するようにとの声を頂きながら委員の本質をしつかりと理解確認し、新日本美術協会を少しでも前進するよう努めて参りたいと思います。委員活動に携われることに、たいへん光栄に存じますと共にその責任の重さを改めて感じている次第です。

委員会の運営は、森屋代表、さらに前任の中尾代表の時代から築き上げられた代表のリーダーシップの下、委員のチームワークと深い議論を通じた企画を丹念に練っていく方法で、委員会の質を着実に保持、向上させていらつしやいました。委員として会議に参加する中で、森屋代表のリーダーシップと委員会メンバーのチームワークの強さの賜物という事がよく理解できました。

また委員会後の懇親の場についても、大変有意義で参加する楽しさを実感できる雰囲気も持続させておられました。当方、微力ながら、そうした環境を引き継ぎやがいのある委員会環境を醸成し、下で活発な議論も続けられればと思っております。

以上を踏まえ、どうか今後ともご指導の程宜しくお願い申し上げます。